



Bitoma sulcata (LeConte, 1858)

日本産ヒゲブトハネカクシ属 *Aleochara* の種同定の手引き

II. 海浜性 *Triochara* 亜属

山本周平¹⁾・丸山宗利²⁾

¹⁾ 〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室 (s.yamamoto.64@gmail.com)

²⁾ 〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学総合研究博物館

Identification guides for the Japanese species of the genus *Aleochara* Gravenhorst

Part II. Subgenus *Triochara* Bernhauer

Shûhei YAMAMOTO and Munetoshi MARUYAMA

緒言

前回は日本産ヒゲブトハネカクシ属 *Aleochara* Gravenhorst, 1802 (ハネカクシ科: ヒゲブトハネカクシ亜科: ヒゲブトハネカクシ族) の解説初回として、海浜性の *Emplenota* 亜属を取り上げた (山本・丸山, 2013). 今回は、その第二弾として、*Emplenota* 亜属と同じく Yamamoto & Maruyama (2012) でまとめた海浜性の *Triochara* 亜属の解説を行う。次回は *Coprochara* 亜属の紹介を予定している。

Triochara 亜属 (*Triochara* Bernhauer, 1901)

ヒゲブトハネカクシ属は 19 亜属 450 種以上を含む大きな属であるが、海浜性種は 4 亜属 19 種のみであり、明らかな少数派であるといえる。*Triochara* 亜属は、含まれるすべての種が海浜性という点で特異であり、日本を中心とした極東地域に限定して 3 種のみが知られている。日本は全種が分布している唯一の国であり、*Emplenota* 亜属同様、日本における *Triochara* 亜属の種多様性は高いといえる。なお、国内における各種の分布パターンも既に判明している (後述)。それゆえに、*Emplenota* 亜属同様、日本における *Triochara* 亜属

の種多様性は高いといえる。

生息場所としては砂浜を選好し、*Emplenota* 亜属と同じく、漂着したやや湿った海藻塊内部や接地面に潜む。しかしながら、*Emplenota* 亜属とは異なり、礫浜や岩礁といった環境下からは見出されないようである。また、同亜属よりも自然度の高い砂浜を好む傾向にある。

系統関係に関しては、形態ならびに分子情報から、*Emplenota* 亜属が姉妹群関係にあるものと考えられている (Assing, 1995; Maus *et al.*, 2001; Song & Ahn, 2013)。

以下に本亜属の形態的特徴および検索表を記したのち、日本産各種を紹介する。

計測値の略号などは山本・丸山 (2013) を踏襲する。

形態的特徴: 体は中型で両側がほぼ並行状となり、細長い。全身は様に黒色ないしは灰色を呈する。体表 (主に頭部および前胸背板) が明瞭な六角形網目状構造で覆われる種がいる一方で (*Aleochara nubis*)、部分的に不明瞭な六角形網目状構造に覆われ、全体的に光沢を有する種も存在す

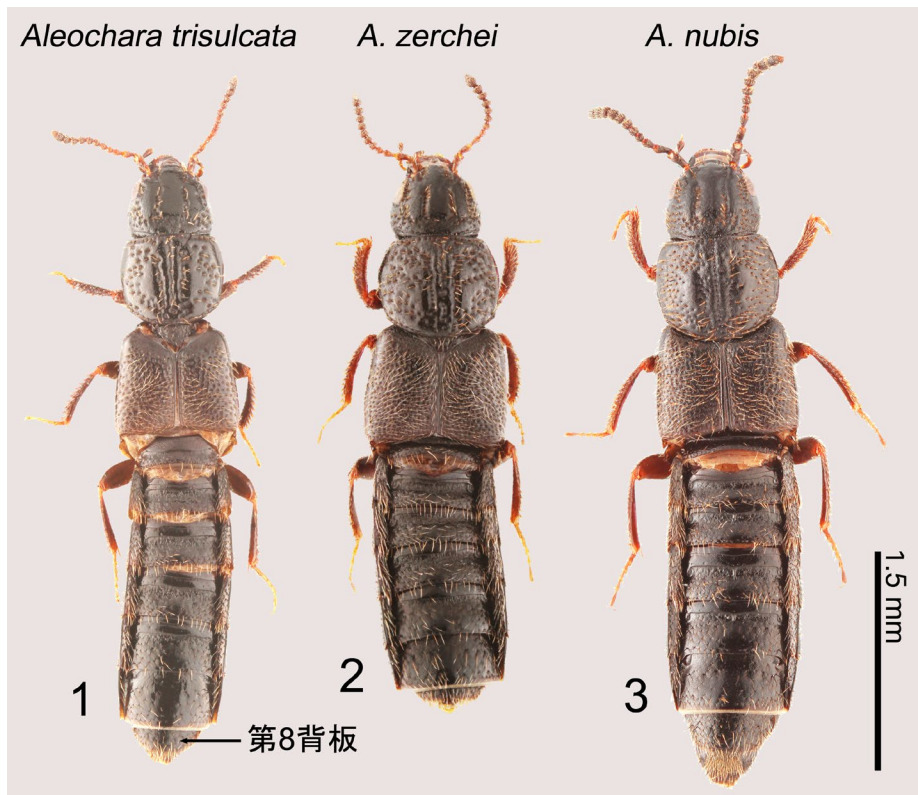


図1-3. 日本産 *Triochara* 亜属各種—1, ホソセスジヒゲブトハネカクシ *Aleochara trisulcata*; 2, ニセスジヒゲブトハネカクシ *A. zerchei*; 3, エゾセスジヒゲブトハネカクシ *A. nubis*.

る (*A. trisulcata*, *A. zerchei*). 触角は太短く、第4節から10節まで明らかに幅広い。頭部には中央線と並行状の縦溝を有し、前胸背板表面にも3本の縦溝が見られるが、その状態には種間および種内変異がみられる。また、前胸背板の背面には立体的な模様が形成される。中胸腹板は隆状突起を完全に欠く。脚は太短く、特に前脚脛節表面には多数の顕著な棘を有する。雄交尾器中央片には1対の板状突起 (subapico-ventral projection) を有する (図7: 矢印)。

分布：日本，サハリン，千島列島，カムチャツカ半島，ロシア沿海州，韓国，北朝鮮，香港。

日本国内の分布：日本全土に分布するが、種によって異なる分布を示すことが判明している (図6)。エゾセスジヒゲブトハネカクシ *A. nubis* はロシア極東から千島列島，日本にかけて分布し、日本国内では北海道の太平洋沿岸地域のみで生息が確認されている。他方で、ホソセスジヒゲブトハネカクシ *A. trisulcata* およびニセスジヒゲブトハネカクシ *A. zerchei* は全国型の分布を示す。両種は同一の海岸で得られるなど混生する場合があるが、傾向として、どちらかと言えば前者は暖地選好性、

後者は冷涼地選好性があるものと思われる。実際に、*A. trisulcata* は香港から本州にかけての分布を確認したが、*A. zerchei* は九州北部からロシア極東にかけて生息する。

日本産 *Triochara* 亜属種への検索表

1. 北海道のみに分布；体表は艶消し状を呈し、顕著な六角形網目状構造で覆われる (図4c) 2
- 本州以南にも分布；体表は多かれ少なかれ光沢を有し、六角形網目状構造は不明瞭 3
2. 体はやや大きい場合が多い (BLの平均: 4.23 mm)；前胸背板表面の平滑部の形状は個体変異があるものの、通常は1対の半月状であり、わずかに隆起する (図4c)；中胸腹板の後端 (中基節に挟まれた部分) は尖るものの、先端部は細く丸まる；腹部第8背板末端部に棘列を欠く (図5c)；雄交尾器中央片の板状突起は大きく、卵型 (図7) *A. nubis*
3. 体は小型から中型の場合が多い (BLの平均: 3.71 mm)；前胸背板表面の平滑部の形状はかなりの個体変異が見られるが、通常は点刻列

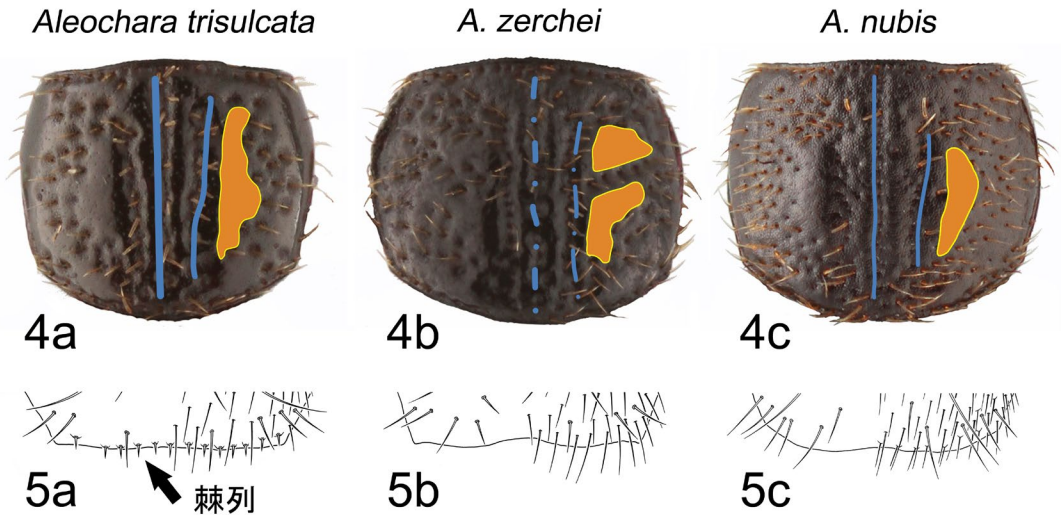


図 4-5. 検索図—4a, 4b, 4c, 前胸背板; 5a, 5b, 5c, 腹部第8背板末端部。

によって上下に分離されること
によって形成された2対の平滑部がある(図4b)；前胸背板の縦溝はどちらかと言えば不明瞭であり、波状を呈する場合が多い(図4b)；中胸腹板の後端は細長く準並行状となり、先端部は丸くなる；腹部第8背板末端部に棘列を欠く(図5b)；雄交尾器中央片の板状突起は小さく、鋭く尖る..... *A. zerchei*

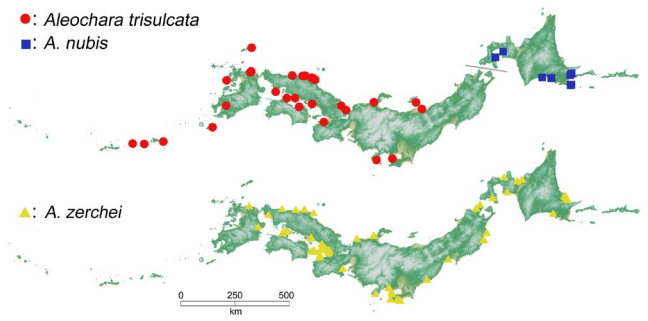


図 6. 日本における各種の分布図。

- 体は小型から中型の場合が多い (BLの平均: 3.48 mm)；前胸背板表面の平滑部の形状は種内で概ね安定しており、半月状の平滑部が1対ある(図4a)；前胸背板の縦溝は明瞭であり、直線状を呈し、両側の縦溝は前方に向かってわずかに広がる(図4b)；中胸腹板の後端は概ね三角形状となり、先端部は鋭く尖る；腹部第8背板末端部に棘列を有し(図5a)，顕微鏡や解像度の高い写真の使用により、外見からも辛うじて確認可能である(参考：図1)；雄交尾器中央片の板状突起は小さく、扇状(図7)..... *A. trisulcata*

成種として長らく本種のみが知られていた。全国的に分布する普通種であるが、われわれは北海道からは本種を確認しておらず、北海道における *A. trisulcata* の記録は他種との同定誤りだと考えている。日本以外では、韓国および香港の記録がある。
計測値の平均 (n = 20) : BL, 3.48; FBL, 1.73; AL, 0.77; PL, 0.63; PW, 0.74.

国内の分布：本州，四国，九州；佐渡島，対馬，種子島，奄美大島，徳之島，沖永良部島。

各種の解説

ホソセスジヒゲブトハネカクシ *Aleochara (Triochara) trisulcata* Weise, 1877

(図 1, 4a, 5a, 6-7)

Triochara 亜属のタイプ種であり，本亜属の構

ニセスジヒゲブトハネカクシ *Aleochara (Triochara) zerchei* (Assing, 1995)

(図 2, 4b, 5b, 6-7)

本種も全国的に分布する普通種であり，Assing (1995) によりロシア極東から新種記載された。日本からは丸山 (2002) で北海道北東部から記録された。関東および関西地方産の「*A. trisulcata*」とされてきた標本に関しては，本種と混同されてい

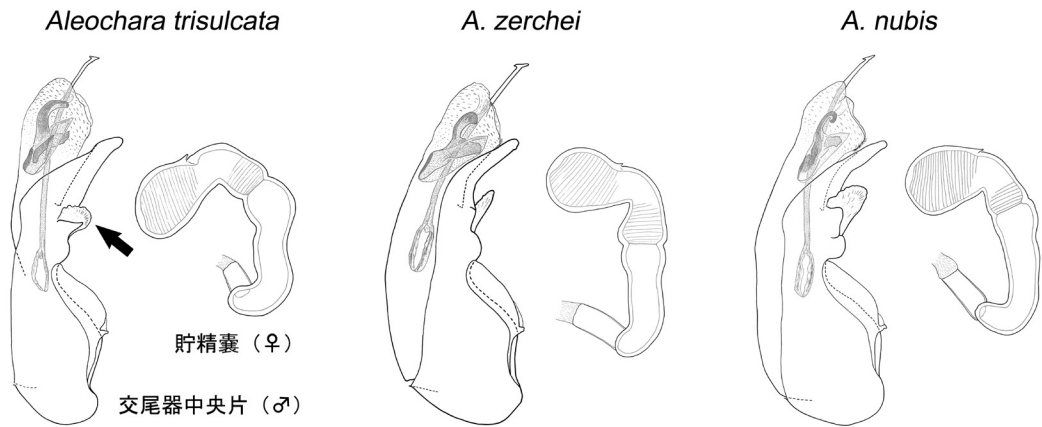


図7. 各種の交尾器中央片 (♂), 受精囊 (♀)。

る可能性があり, すべて再検討を要する. 国外の記録としては, ロシア以外に韓国と北朝鮮からの報告がある.

計測値の平均 (n = 20) : BL, 3.71; FBL, 1.81; AL, 0.79; PL, 0.68; PW, 0.80.

国内の分布: 北海道, 本州, 四国, 九州; 淡路島.

エゾセスジヒゲブトハネカクシ *Aleochara (Triochara) nubis* (Assing, 1995)

(図 3, 4c, 5c, 6-7)

丸山 (2002) により北海道から記録された. 日本からは北海道の太平洋沿岸のみで確認されており, 少ない種である. Assing (1995) によりロシア極東から新種記載され, 北海道からカムチャツカ半島にかけて分布する.

計測値の平均 (n = 20) : BL, 4.26; FBL, 2.04; AL, 0.95; PL, 0.73; PW, 0.89.

国内の分布: 北海道.

引用文献

Assing, V., 1995. The Palearctic species of *Emplenota* Casey,

Polystomota Casey, *Triochara* Bernhauer and *Skenochara* Bernhauer & Scheerpeltz, with descriptions of three new species (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae). *Beiträge zur Entomologie*, 45 (1): 217-237.

丸山宗利, 2002. 北海道の海岸性ハネカクシ. *昆虫と自然*, 37 (12): 17-21.

Maus, C., Peschke, K. & Dobler, S., 2001. Phylogeny of the genus *Aleochara* inferred from mitochondrial cytochrome oxidase sequences (Coleoptera: Staphylinidae). *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 18 (2): 202-216.

Song, J.-H. & Ahn, K.-J., 2013. Molecular phylogeny reveals multiple origins of seashore colonisation in the genus *Aleochara* Gravenhorst (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae). *Invertebrate Systematics*, 27: 239-244.

Weise, J., 1877. Japanische Staphylinidae [sic] und Pselaphidae. In: *Beiträge zur Käferfauna von Japan, meist auf R. Hiller's Sammlungen basiert. Deutsche Entomologische Zeitschrift*, 21: 88-100.

Yamamoto, S. & Maruyama, M., 2012. Revision of the seashore-dwelling subgenera *Emplenota* Casey and *Triochara* Bernhauer (Coleoptera: Staphylinidae: genus *Aleochara*) from Japan. *Zootaxa*, 3517: 1-52.

山本周平・丸山宗利, 2013. 日本産ヒゲブトハネカクシ属 *Aleochara* の種同定の手引き I. 海浜性 *Emplenota* 亜属. さやばねニューシリーズ, (9): 1-5.

(2013年6月10日受領, 2013年6月17日受理)

【短報】本州におけるヘリアカゴミムシダマシの記録

ヘリアカゴミムシダマシ *Cenoscelis lateralis* (Boheman, 1858) は, インドから東南アジア一帯, さらにマリアナ, ハワイにかけて広い分布域をもつゴミムシダマシである. 日本では南九州から琉球列島にかけて分布しているものの, 本州における記録は知られていない. 筆者らは三重県で採集された標本を所持しているので報告しておきたい.

1♀, 三重県菰野町竹成, 31-VII-2012, 市川太採集,

秋田勝己保管.

市川が勤務する工場内で得た. 工場内には中国杭州から輸入された荷物があつたことから, これにまぎれて移入された個体である可能性が否定できないものと思われる.

(秋田勝己 514-0819 津市高茶屋 7-8-12-207)
(市川 太 510-1312 三重郡菰野町竹成 2245-45)